

は　じ　め　に

本校は、周囲を山々に囲まれ、豊かな自然、古代からの歴史と伝統・文化が息づく落ち着いた環境にあり、子どもたちはこうした恵まれた学習環境の中で、伸びやかに成長しております。

しかし、地域の実態は、近年過疎化高齢化の中にあり、児童数も年々減少傾向にあります。児童数の減少という厳しい現実と直面している本校ですが、保護者・地域からは、惜しめない支援と協力が寄せられております。これは、本校児童17名に、地域の将来を託す願いの表れと受け止め、本校教育活動を通し、児童に確かな学力とどのような環境にあっても、たくましく、しなやかに「生きる力」を育てなければならぬと考えております。そして、児童が成長した後も、郷土「山野」を愛し、郷土「山野」を誇りに思う心を持ち続けるよう育てる使命と責任を、本校は担っていると考えております。

こうしたなか本校は、平成20・21年度、国立教育政策研究所より、「我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」の指定校として、実践研究に取り組む機会を得ました。あわせて、今回改訂された新学習指導要領には、総合的な学習の時間の目標をふまえた学習内容を、各学校で定めることが求められております。

そこで、地域と学校・児童実態をふまえ、本校の研究主題を「自分・学校・郷土に誇りをもつ子どもの育成」、サブテーマを「郷土の人・学校・ものとのかかわり合いを通して」とし、地域に伝わる伝統・文化等の教育素材や地域の人に焦点をあてた学習活動を、総合的

な学習の時間を中心に、本校独自の単元を立ち上げ、取り組みを進めてきております。

本校は、先にも述べましたとおり、極小規模の学校です。その極小規模校であることを「強み」とし、児童一人一人に基礎的・基本的な知識・技能の習得・定着を図るための「ドリルタイム」や、思考力・表現力を育てるための「ことばタイム」を日々積み上げ、確かな学力を身につけさせる手立てとしております。そして、総合的な学習の時間の体験活動と道徳の時間との関連を図り、体験活動のなかでふれた道徳的価値の自覚が図られるよう単元構成を工夫しております。また「ことばタイム」を通して児童が身につけた言語技術を活用し、総合的な学習の時間の学びを充実させることを、今年度は大切にしております。

本日、こうした本校の取り組みを公開し、皆様方から忌憚のないご意見、ご指導をいただきたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

終わりにりましたが、本校教育研究のために熱心なご指導をくださいました、広島県教育委員会、福山市教育委員会、多くの先生方、そして、いつも温かいご支援とご協力をいただきました、保護者・地域のみなさま方に、心よりお礼を申し上げ、挨拶と致します。

平成21年11月 5日

福山市立山野小学校

校長 萩原 由紀子